

日本組織培養学会

昭和45年3月15日

会員通信
第13号

発行責任者

佐藤二郎

喜多村 勇

岡山市岡164

岡山大学医学部 癌源病理

☎ 7151 小児科

研究会の予定変更について

行

1970年春の第29回研究会は岡田善雄氏を世話人として大阪大学微生物病研究所で行なわれる予定となっております。しかし、御存知のように万博開催に伴い大阪周辺の宿泊に関する事情が予想以上に悪化してまいりました関係上、残念ながら有意義な研究会を持つことが危ぶまれる状況となりました。したがって、突然のことで会員諸氏には大変御迷惑をおかけすることになるかと存じますが、種々検討の結果研究会開催の予定を下記の通り変更致しましたので御了承下さい。

記

第29回研究会

世話人：山田正篤（東大・薬）

と き：1970年6月19日（金）20日（土）

ところ：薬業健保会館（東京都千代田区永田町2-17-2）

シンポジウム「同調培養法」（仮題）

第30回研究会

世話人：岡田善雄（阪大・微研）

と き：1970年秋

なお、上記第29回研究会の演題募集その他につきましては後日世話人の山田正篤氏より御案内を差上げることとなりますので、御協力の程お願い申し上げます。

幹事会

第29回研究会のシンポジウムの司会をどうかやりおおせて、今度は喜多村さんからその感想をかくよう頼まれて数ヶ月たってしまいました。会報がなかなか出ない責任の一端が私にもあるわけで、とくに今回のシンポジウムに関してではなく、一般的なシンポジウムの感想やら研究会のありかたなど、思いつくまゝに書いて責を果したいと思います。

1 研究会の若がりが必要ではないか

「組織培養学会の討論はなにかえらい人が教えをたれるだけで、本当に対等の討論が少ないのではないか……」

生化学者の君がふとつぶやいたのをきいてハッと思いあたることがありました。10年も前、まだ組織培養学会ができたばかりで、会の性格やら進め方について勝田さんを中心に真剣に議論をしていた頃です。川喜田先生も現役で一緒におられたので幹事会の席だったと思います。私たちが幹事の定年制を相談し、当時として、また現在でも画期的と思われる40才定年をうち出すことを話しあっていたのですが、話が一段落した時川喜田先生がウィルス学会の創生の頃の話をされました。戦後まもなくできたウィルス学会も若い30才台の人たちによって新しい気持で運営されていました。数年にわたって続けられたウィルス増殖シンポジウムも、当時としてはウィルス学だけでなく、日本の生物学を進めるうえにずいぶん貢献したと思われる。しかしいつのまにか創生時の活潑だった人々がそろって年をとってしまっていることに気づき、これではいけないと反省しているところだというお話でした。

その後ウィルス学会がどのように改組されたか、また現状はどうかという点について、報告できるほど私はウィルス学会について詳しく知らないわけですが、組織培養学会について考えてみると、「気がついてみると皆そろって年をとってしまった」という事情はやはりウィルス学会と共通のようです。

そこで君のつぶやきにもどるわけですが、若いつもりで一緒に討論していたのが教訓めいた話ばかりしていると他の研究畑の人にきこえたとすれば、「皆そろって年をとってしまった」という事情が客観的にとらえられたこととなります。これではいけないということは確かなのですが、それでは「若ものよ、改革に参加せよ」と太鼓をたたいたところで、東大改革委員会（教官）の学生への呼びかけのようです。

学会という生物にはagingがつきものなのか？ 分裂すれば若がりがあるが— budding かもしれない— 分裂しないで若がえる方法は？ これらはそろって年をとってしまった側からの発言だけではどうにもならないことでしょう。

2 シンポジウムの開催について

一年2回の研究会ごとにシンポジウムが企画され、それなりの成果をあげているようであるが、幹事会はいつもシンポジウムのテーマに頭を悩ませている。それはあまりにも多くの近縁の学会がそれぞれシンポジウムを開いているために、トピックスを追うと学会ごとに独立した

シンポジウムを作りかねている現状だからである。たしかに短い発表よりシンポジウム形式の方がまとめた知識を吸収するためには収穫が多いと思うが、昨今のようにシンポジウムがやたらに多いと、多少のメンバーの変更があっても大半は同じ発表者であり、テーマも似たり寄ったりになって、新鮮味に乏しくなる。思いきって新しいテーマを選ぶか、あるいはそれぞれの学会に則したテーマしかとりあげないという姿勢が必要なのではあるまいか。または2、3の学会が損談して、intersocietyのシンポジウムを企画すれば、一つのテーマをいろいろな見地からながめることができると思う。

世の中に学会があまりにも多すぎる。それぞれの学会に歴史があり、またそれぞれの事情があって仲々統一した企画のもとに共同開催のシンポジウムが開かれぬ。まづは第一歩として組織培養学会も細胞生物学会のような近縁の学会とできるだけ同じ日時に、同じ場所で学会、研究会を開いて、相互の交流をはかることを提案したい。ゆくゆくはアメリカの実験生物学会 (American Societies for Experimental Biology) の Federation meetings のような形式がほしい。

話がシンポジウムのテーマから学会へ移行してしまったが、要はシンポジウムも食傷ぎみで、組織培養学会としても毎回シンポジウムをたゞ漫然とくりかえすだけでなく、いろいろ考えてみる必要があると思われる。

ところで第29回研究会を都合により大阪から東京に移すことになり、急に世話人をひきうけることになりました。シンポジウムをどうしようとする前に、すでにきまっているテーマ「同調培養法」で早速動き出さざるをえなくなりました。このテーマは組織培養学会として従来取り上げたことがなく、また本学会に則したものと考えます。とりあえず寺島東洋三氏(放医研)にお願いして、司会をしていただくことに致しました。このシンポジウムでとりあげる問題は、同調法そのものの術式の検討と、同調培養法を利用しておこなった研究ということになりますが、身近なテーマですので、ふるって御参加下さい。なお、このシンポジウムについて、御意見がありましたら、寺島東洋三氏(放医研)または山田あてに御連絡下さい。

(山田正篤)

寺島(0472)51-2111

山田(03)812-2111(内線2329)

以 上

44年度会計報告（10月末中間報告）

収入の部	予 算	4月～10月末
前年度くりこし	50,000	115,851
賛助会費	250,000	240,000
会員会費	150,000	81,000
文部省助成金	220,000	—
銀行利子	—	1,091
ビブリオグラフィ売上	—	2,793
計	670,000	440,735

支出の部

刊行費ビブリオグラフィ	450,000	3,900
名 簿	40,000	4,800
会員通信	20,000	—
事務費	30,000	10,000
郵送費	60,000	9,755
選挙費用	20,000	—
予備費（くりこし分）	50,000	* 40,000
計	650,000	68,455

* 春の総会の席上で皆さまに御同意を得ました非会員の方々の“医学のあゆみ”原稿料，返金分です。

現在、手許に残っております金額は、

銀行定期預金 ￥ 350,000 当座預金 ￥ 9,316 現金 ￥ 12,964

計 ￥ 372,280です。文部省助成金が、実際には￥20,000減と決定されましたが、￥200,000入金確実ですので、本年度も一応健全財政として、ビブリオグラフィを出すことが出来る見込みとなりました。

賛助会費の納入は大変良好で、賛助会員の皆さまには厚く御礼申し上げます。

会員の皆さんの、会費納入は、非常に芳しくありません。殊に研究会へ御出席を怠けておられる方々の納入がおこなわれていますので、何とぞ、御協力下さいませ。

会計幹事 高岡 聡子

❖ 新入会員（アイウエオ順）

乾 直 道 癌研究会 癌研究所
五 島 喜 代 太 大阪大学理学部 生物学教室
田 中 達 也 愛知県がんセンター研究所
難 波 正 義 岡山大学 癌源研究施設
二 階 堂 修 金沢大学 薬学部 放射薬品化学教室
波 多 野 基 一 金沢大学 がん研究所
松 村 外 志 張 東京医科歯科大学 硬組織生理研究施設

新入賛助会員

吉富製薬株式会社
国産化学株式会社
栄研化学株式会社

❖ 培養株細胞の凍結保存状況に関するアンケートについて

培養株細胞の保存維持の研究班

代表者 佐藤 二郎（岡大・癌研）

私達は昨年度から文部省がん特別研究による、上記の研究班を結成しております。その研究の一環として全国の各研究機関に於ける培養株細胞の凍結保存の現況を目下調査しております。

昨年12月（第1回）と今年の1月（第2回）の2回にわたり、会員名簿から103名の方々を選ばせていただき、アンケートをお送りして、回答をお願いいたしました。

アンケート発送数	回答数	凍 結 株		未 回 答 数
		有	無	
第1回 103	32	19	13	71
第2回 79	27	14	13	52
	59	33	26	

3月9日現在、上記の如く、回答をいただきました。御協力有難うございました。なお未回答の52名の方々には再度アンケートを発送させていただく予定にしておりますので、何卒宜敷くお願い申し上げます。そして凍結株が無い場合は御面倒でもそのむねをお知らせ下さい。又、培養学会の会員以外の方で凍結株をお持ちの方がいましたら御連絡下さい。資料に加えたいと思います。

皆様の御協力によるこれらの資料の結果は集計・分析の上、後日培養学会等で報告させていただきます。予定にしております。

紙上をお借りしまして会員の皆様にお礼とお願いをさせていただきました。

❖ 第1回 金沢組織培養談話会

演者 = 古山順一氏 (阪大・医・遺伝)

染色体レベルでみた遺伝病

日時 = 1969年11月24日(月) 午後1時より

場所 = 金沢大学 医学部 第2講義室

第2回 金沢組織培養談話会

演者 = 友枝宗光氏 (金沢大・薬・薬化)

4-NQO誘導体の生物活性とその機構解明へのアプローチ

日時 = 1970年1月23日(金) 午後2時より

場所 = 金沢大学 医学部 十全講堂2階会議室

(堀川正克氏通信)